

令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録

校名	府立茨木支援学校
校長名	大峠 貴弘
准校長名	紙野 泰彦

開催日時	令和8年2月2日(月) 10:00~12:00
開催場所	府立茨木支援学校 会議室
出席者(委員)	鈴木 博 (元 本校校長) 閑喜 美史(梅花女子大学) 吉田 栄一((株)十全) 川又 澄子(地域コーディネーター) 林田 理恵子(PTA 会長)
出席者(学校)	校長:大峠 准校長:紙野 事務長:谷口 教頭:木崎、岸尾 首席:助口、井上(中学部主事兼任)、平水、下田 部主事:板口、生野、田中 教務部長:細川
傍聴者	0名
協議資料	令和7年度 学校経営計画・評価 令和8年度 経営計画(案)・学校評価(案) 学校教育自己診断アンケート:集計表・集計結果一式 令和7年度 授業参観アンケート結果 高等部教員による不適切発言の報告、および再発防止に向けた今後の取組み

議題等
<p>はじめに 事務局からの連絡、校長・准校長あいさつ</p> <p>次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和7年度 学校経営計画(評価)について 2. 令和8年度 学校経営計画(案)について 3. 令和7年度 学校教育自己診断アンケートの評価について 4. 令和7年度 授業アンケートの結果について 5. その他 6. 意見書について

協議内容・承認事項等（意見の概要）

1. 令和7年度 学校経営計画進捗状況について

【報告：大峠】

・中期目標：前年踏襲。ただし人権侵害事象の発生により、該当 KPI（人権侵害 0 件）に「1 件」を計上。令和 8 年度に向けたアプローチは別議題で提示予定。

・個人情報：ヒヤリハットが発生。紙媒体の運用は整備が進む一方、電子データ管理の体制に不十分さがあり、次年度の重点に位置づけたい。

・体育大会（小中）を体育館で実施：保護者評価は概ね良好。天候影響の回避、空調環境の利点を確認。今後も継続を検討。

・引継ぎ訓練：より実態に近い形で実施。今後は日時のみ通知し、時間は学校側で設定する運用などを検討

【報告：紙野】

・キャリア教育の充実：企業就労内定 3 名、能開校 2 名、自立訓練 8 名、就労継続支援 10 名、生活介護 23 名、その他 2 名。昨年度卒業生の定着率は現時点 100%と報告。

・2 年連続の人権侵害事象：学校運営上、極めて重く受け止め、令和 8 年度の重点課題とする。

◆質問・意見等

Q：学校組織：電子データの個人情報の扱いが課題。体育館実施は評価できるが、高等部の運動量確保は？また進路の定着率は数年単位で追ってほしい。

A：電子管理は賢者システムの導入に伴い次年度の重点。体育館実施は小中学部を中心に継続検討。定着率は「3 か月・1 年・3 年」での把握が一般的で、3 年時の離職が出やすい傾向を踏まえ追跡している。

Q：定着率は「在籍」だけでなく通えているかが重要。追跡をお願いしたい。

A：継続的に追跡している。3 年継続できれば長期就労につながる傾向だと認識している。

Q：定着率の年限や離職要因（ミスマッチ、評価・処遇のギャップ）へのフォローは？

A：3 か月・1 年・3 年の節目で確認。3 年での離職が統計上多い。ミスマッチ防止のためアセスメント・マッチング・フォローアップを実施している。

Q：「生教育会議」の「生」はこれであっているのか？

A：性を含め、生きることを学んでいくため「生」の字を使用。

2. 令和8年度 学校経営計画（案）について

【報告：大峠】

・組織課題を踏まえ、中期目標の表現を「集団づくり」から「教職員一人ひとりの育成」起点に改める案。思いやりをもって寄り添い、強みを活かし支え合う教職員の育成を明記。

・注意し合える→最終的に称え合える集団への段階的育成を想定。

【報告:紙野】

- ・「茨木ウェルプロジェクトチーム」(仮称)を立ち上げ、児童生徒の「精神的・社会的に満たされた状態(ウェルビーイング)」と、教職員が健全に向き合える環境整備を推進。
- ・大阪府の人権保障推進事業に参加し、外部知見と連動して組織の人権意識を高める。

◆質問・意見等

Q:専門チームのメンバー構成は?児童生徒の意見を取り込める仕組みは?

A:次議題の生徒アンケート等の声も参照する。具体の設計は今後詰める。

意見:反省に引きずられず、子ども起点で前進を。対内外コミュニケーションと研修の実効化を重視すべき。

3. 令和7年度 学校教育自己診断アンケートの評価について

【報告:井上】

- ・令和6年度は回収率が低かったため、令和5年~7年の肯定率推移を比較検証。教職員回収率は98%へ回復。保護者はやや低下。今年度から児童生徒は全学部で実施。自由記述の抜粋を提示。
- ・保護者アンケートではHP発信の肯定率は上昇(さくら連絡網で更新通知)。一方で人権関連項目は慎重な回答傾向。
- ・防災項目の肯定率が大幅低下。新規取組(大規模災害想定研修、備蓄展示)を実施したが、評価基準の厳格化や施設老朽化への不安が影響か。

◆質問・意見等

Q:生徒アンケート(高等部生活課程)は令和6→7で肯定率が大きく低下。要因は?教員アンケートの防災の急落は事実と乖離がないか。

A:(学校)今年度は設問文・回答法を簡素化(Yes/No/わからない)したため単純な数値比較は困難。また、今年度より小中学部を含む全校実施に改めたため、次年度同じ条件で数値を比較検証する。防災については施設設備の大きな破損等の事実は無く、北部地震後の施設点検でも問題は指摘されていないが、そのことについての周知不足や、新たな取組みにより危機感が高まったことによる評価基準の変化が影響したと考える。屋上・外壁の改修工事は来年度より着手予定。

Q:生徒アンケートの「将来について教えてください」で「わからない」が多い。授業で動画・体験等を増やし、理解を促してはどうか。

A:進路学習の見える化と体験要素の拡充を検討。

Q:出欠管理のICT化は?

A:現状は教員がアナログ管理。来年度からデジタル化を検討。ICカード活用例は他校にあり、参考にす

意見:教職員アンケートの回収 100%を標準に。授業参観アンケートなどのフィードバックを全体共有し、授業改善へ。

4. 令和 7 年度 授業アンケートの結果について

【報告:木崎】

- ・年 2 回(6 月・12 月)実施の回収分を集計。小中高で傾向差あり。高等部で否定的回答がやや増。授業づくりの校内研修を継続し、相互参観等で授業力向上を図る。
- ・中学部の一部回答は無効の内容だったため集計対象外。

◆質問・意見等

Q:自由記述の否定的意見をどう捉え、どう返すか。

A:子どもに寄り添った授業づくりの不足を反省。相互参観と研修の強化で改善する。

5. その他

- ・内容は追って公開

6. 意見書について

- ・意見書箱は当該期間に投函なし。

本年度の学校運営協議会は第 3 回をもって終了。